

Q & A

J-PEAKS勉強会
大学運営に直結する研究データ管理
2026年2月17日（火） 15：30～17：00

質問 1

1. どのような基準や判断プロセスで「公開すべきデータ」と「厳格に管理すべきデータ」を切り分ければよいか？
2. 特に経済安全保障の観点から同盟国とそれ以外の国に対する対応を変えないといけないのか？

「公開すべきデータ」と「厳格に管理すべきデータ」の切り分け基準

1. 法令・規制で“出せない/制限される”もの (Must-Close)

- 個人情報・要配慮個人情報、倫理指針・契約上の守秘
- 安全保障貿易管理（外為法等）や防衛関連の秘密等に抵触し得る情報
- 重要インフラや施設の詳細設計等、公開で安全保障・公共安全を損ねうる情報

※研究データの公開条件指定のガイドラインでも、国家安全保障に係るデータは法規制対象になり得る旨が整理されています

2. 産業競争力・研究優位性を毀損し得るもの (Strategic-Close)

- 未公開の発明・ノウハウ、特許前データ、共同研究企業の機微
- 公開のタイミングが不適切な場合（＝エンバゴで調整）

※内閣府文書でも「産業競争力・学術上の優位性」等の観点から非公開やエンバゴを想定しています

3. 不正利用 (dual use) ・悪用可能性が高いもの (Misuse-Risk)

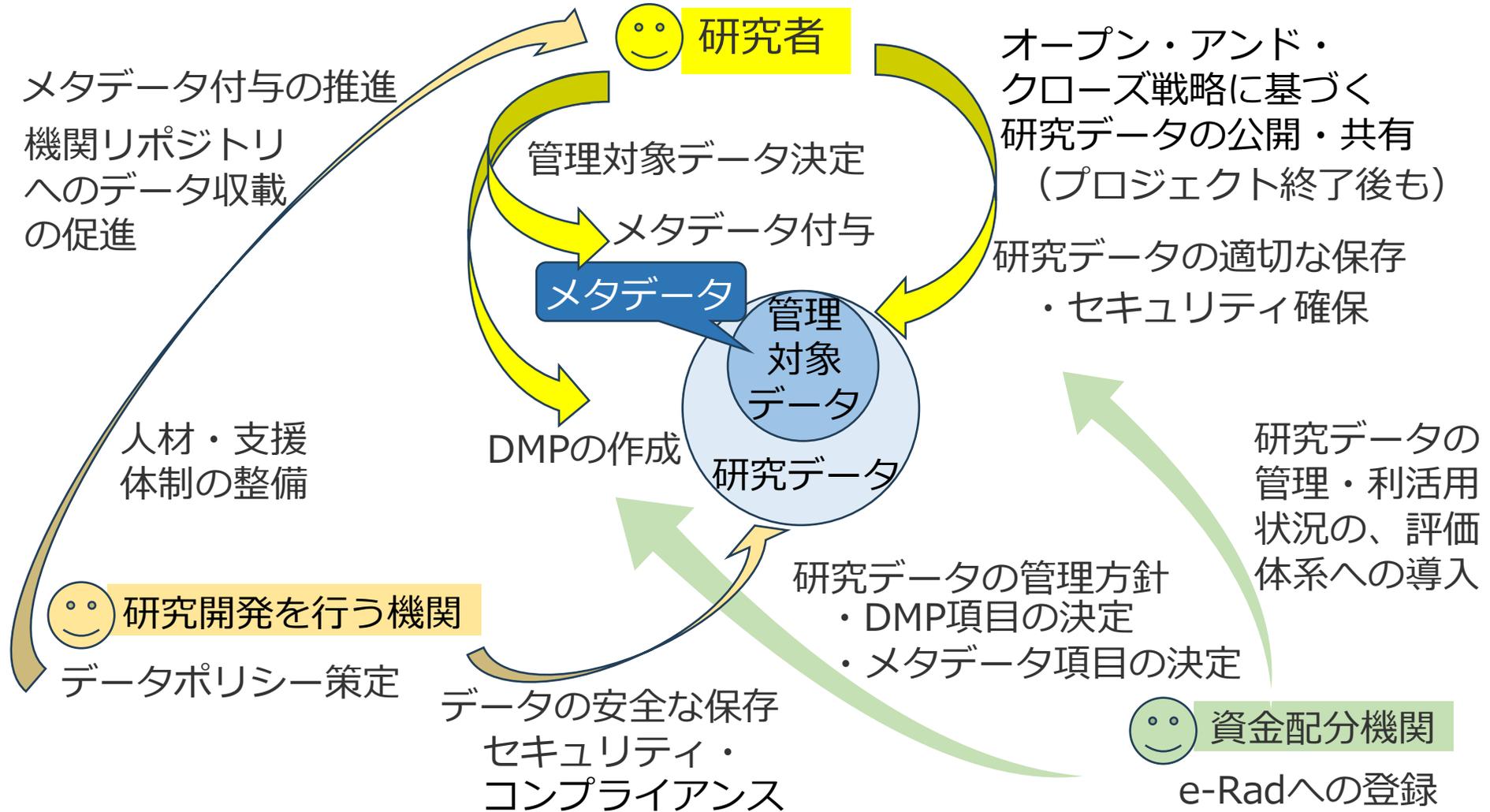
- 危険物・脆弱性・攻撃手法に直結するデータ、再現可能な手順
- 公開するなら、解像度の落とし込み（集計化・匿名化・合成データ化）や条件付き共有にする

4. 公開価値が高く、リスクが低いもの (Open-First)

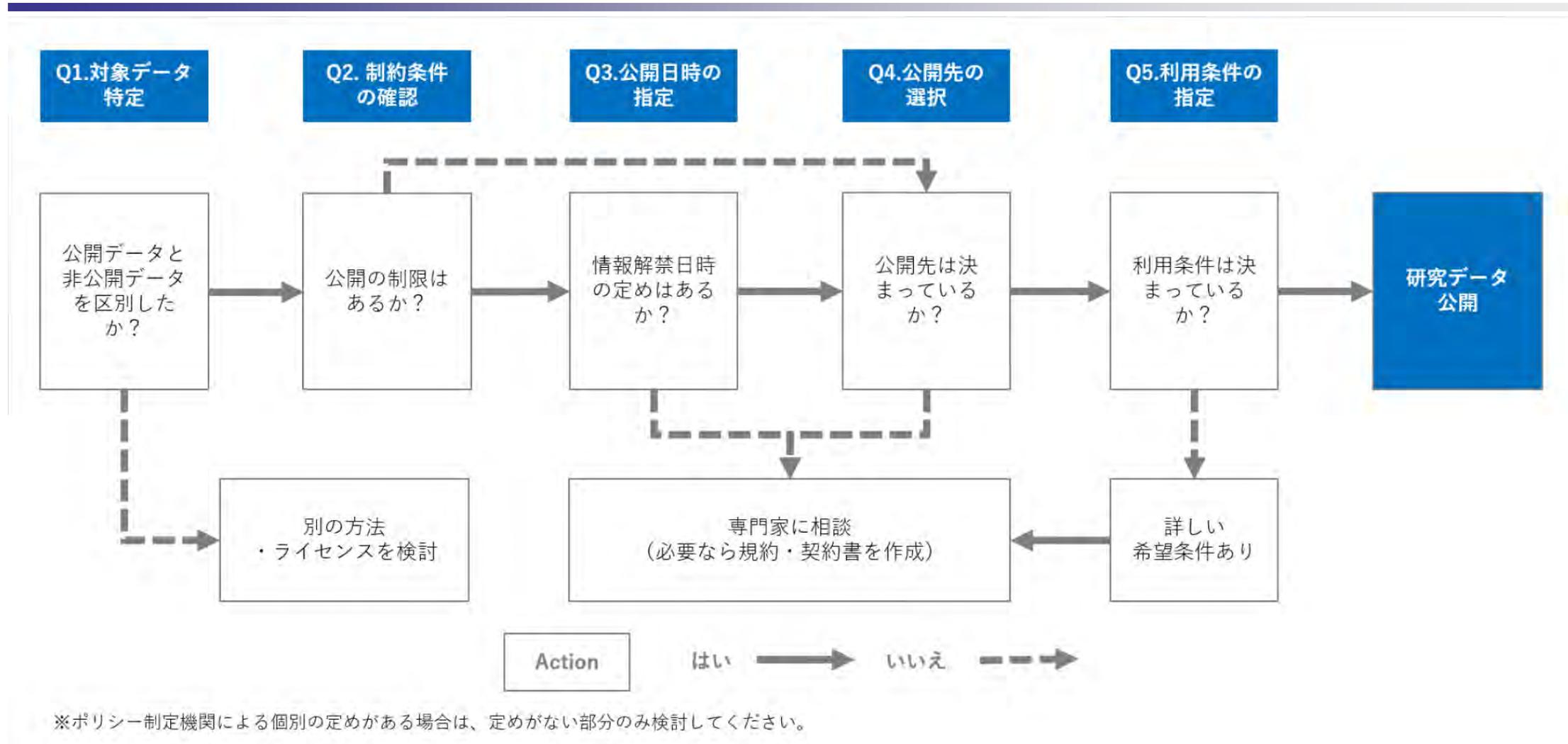
- 論文のエビデンスとなるデータは原則公開（例外は上記1～3）
- 再利用可能で公益性が高いデータ（メタデータ整備込み）

※「論文エビデンスは原則公開、その他も可能な範囲で公開が望ましい」という基本もここに該当します

各ステークホルダーの責務



研究データの公開・利用条件指定フロー



経済安全保障の観点から、同盟国とそれ以外の国に対する対応

- 「公開すべきデータ」と「厳格に管理すべきデータ」の切り分け（リスクマネジメント）において、相手が同盟国（同志国）であるか否かで対応の「深度」や「目的」は変わるが、判断の「プロセス」そのものは国籍等による差別はあってはならない
- 経済安全保障の観点からは、「同志国との信頼構築によるオープンな協力」と「懸念のある相手からの技術保護（クローズ）」という、相手に応じた戦略的な使い分けが前提

「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」

（研究セキュリティと研究インテグリティの確保に関する有識者会議）より

https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/integrity/yushikisha/guidelines_v1.pdf

質問 2

- 理想論は理解しているが、現実の研究者にとっては更に雑用が増えると思うので、研究者の負担軽減とポリシー遵守の実効性のバランスについて研究者に対してどう説明し、具体的にどうすれば理想と現実のバランスを取れるのか？

回答およびディスカッション

- プログラム 1 & 2 の振り返り
 - もはや理想論と片付けられる状況にはない
 - いかにも、攻めの戦略に位置づけることができるかが肝要
- プログラム 4 の振り返り
 - インセンティブ設計の考え方の例

投資対効果の視点での対話

- 「やらされている作業」という認識を「自分のための戦略」に
 - 現在、主要な助成機関や国際誌において、データ管理計画（DMP）の策定やデータ公開は「努力目標」から「採択・掲載の前提条件」へとフェーズが変わっている（=怠れば、公的資金を獲得する資格を喪失）
 - 「誰かに勝手に使われる」リスクを恐れるよりも、「適切に引用され、新しい共同研究のオファーが届く窓口を作る」メリットを強調
- 理想と現実のバランスを取るための具体策： 「一石三鳥」の仕組み作り
 1. 「一度の入力で何度も使い回す」仕組み（Metadata Reuse）
 2. 「最低限（Minimum Viable Management）」を定義
 3. ツールによる自動化と外部リソースの活用

質問 3

- AIにデータを読み込ませる場合などを含む二次的なデータ利用に対する倫理的及び技術的な課題とその解決方法について

「最小の判断・実装」 (ガイドライン準拠の型)

1. データ棚卸し：個人情報／知財／契約制約／秘匿性をタグ化
(利用可否の根拠も紐づけ)
2. リスク分類 (影響×蓋然性)：高いほど対策を厚く (リスクベース)
3. 利用形態別の制御：
 - “入力 (プロンプト投入)” は 入れない設計 + 注意喚起
 - “学習/微調整” は 適切な収集・法令/知財配慮・アクセス管理
4. トレーサビリティ/文書化：来歴・意思決定・変更を追える状態に (説明責任の土台)
5. 品質・公平性評価：バイアス点検を設計に組み込み、人手レビューも計画

経営課題としての視点

- データ主権（データ・ソブリン）とライセンス
 - データは誰が持ち、誰がライセンスを付与するのか
- 戦略的なデータ活用
 - データを単に管理するだけでなく、将来的に「売り物」になる可能性も含め、大学の資産としてどう管理・活用するか

AIと著作権・Creative Commons

- AIと著作権について（文化庁）
 - <https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
- クリエイティブ・コモンズ（CC）ライセンスが付与された作品をAIの学習に利用する場合のガイドラインと法的解釈について
 - <https://creativecommons.org/using-cc-licensed-works-for-ai-training-2/>
 - コンプライアンスを重視する場合の指針（保守的アプローチ）
 - 表示 (BY): 学習データセットのソースへのリンクを記載する、あるいはRAG（検索拡張生成）等を用いて出力時に出典を表示するのが理想。
 - 継承 (SA): 学習の結果、モデルや出力が「二次的著作物」とみなされる場合、モデル自体も同じライセンスで公開することが求められる。
 - 非営利 (NC): データ収集からモデルの共有、利用に至るまで、営利目的を排除する必要がある。
 - 改変禁止 (ND): この条件がある作品は、そもそも学習データとしての利用を避けるべき。

質問 4

- データの収集や分析に使用しているソフトウェアやアプリなどあればご紹介していただきたい。

研究者に広く使われているツール類の例示

1. データ収集・記録（実験・調査）
 - ✓ 電子実験ノート (ELN: Electronic Lab Notebook)
 - LabArchives (<https://www.labarchives.com/>)
 - Rspace (<https://www.researchspace.com/>)
 - ✓ サurvey・フィールド調査ツール
 - REDCap (<https://project-redcap.org/>)
 - Qualtrics (<https://www.qualtrics.com/ja/>)
 - KoboToolbox (<https://www.kobotoolbox.org/>)
2. 定量的データ分析（統計・計算）
 - R / Rstudio
 - Python (Jupyter Notebook / Lab)
 - NII RDC コード付帯機能 (<https://rcos.nii.ac.jp/service/cs/>)
 - SPSS / Stata
3. 定性的データ分析（QDA）
 - Nvivo (<https://www.qdaa.info/software/nvivo/>)
 - MAXQDA (<https://www.qdaa.info/software/maxqda/>)
4. データのバージョン管理・プロジェクト管理
 - Git / GitHub / GitLab
 - Open Science Framework (OSF)
 - GakuNin RDM (<https://rcos.nii.ac.jp/service/rdm/>)

その他の質問

- 体制のあり方
 - 広島大学の例
 - 藤田医科大学の例

全国展開につながるネットワーク／コミュニティを形成

Why?

全国規模の
地域コミュニティ活動



“顔の見える関係”で、ポリシー策定、セミナー開催、調査実施、実践的な研究データ管理等を、互恵的に実施

地域のネットワークが、NII RDCの全国展開・利活用を強化促進

地域コンソーシアム等への参加機関数
= のべ97機関 (2026年1月現在)

RDM実務担当者数 (457機関)

部署	頭数 (人)	頭数・平均 (人)	FTE・平均 (人)
図書館	452	0.99	0.39
研究推進	434	0.95	0.38
情報基盤	160	0.35	0.12
URA	55	0.12	0.04

組織間の互恵的連携は必須

関西・関東での展開も検討中

2025年度開始

- 北海道地区 (北海道大学)
- 東北地区 (東北大学)

2024年度開始

- 中国四国地区 (広島大学)
- 九州沖縄地区 (九州大学)

2023年度開始

- 東海地区 (名古屋大学)
- 北陸地区 (金沢大学)

関連サイト案内

AI等の活用を推進する
研究データエコシステム構築事業



[https://www.nii.ac.jp/
creded/nii_ac_jp_creded.html](https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html)

研究データ管理
スタートアップ支援事業



[https://www.nii.ac.jp/
creded/start-up.html](https://www.nii.ac.jp/creded/start-up.html)

研究データエコシステム構築事業 シンポジウム Final

2027

3月2日(火)

3月3日(水)

～事業最終年度：創出された知見の総括と、未来へ繋ぐデータエコシステムの展望～

本事業は2026年度をもって最終年度を迎えます。5年間にわたる活動の集大成として、事業成果の全体振り返りと、次世代に向けた継続的な取り組みを議論するためのシンポジウムを開催いたします。

前回（2025年度）は「AIとデータ基盤がつなぐ、多様な知の最前線」を掲げ、ユースケース創出やシステム改善の提言を行ってまいりました。

今回は、それらの知見をさらに深め、政策的な観点と利用者の視点の両面から、事業終了後も自律的に発展し続ける「データエコシステム」の姿を皆様と共に描き出します。

研究データエコシステム構築事業シンポジウムFinal

2027年3月2日（火）13:00～18:30（情報交換会：18:30～）

2027年3月3日（水）10:00～15:00

ハイブリッド開催

（一橋講堂中会議場（学術総合センター2階）及びオンライン）

ご参考：RDES2025サイト



<https://rdes.rcos.nii.ac.jp/>

ご参考：
オープンフォーラム2025

次回開催概要

テーマ「対話で挑み、前へ」

日時：2026年6月8日(月)～10日(水)

場所：一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋2-1-2

学術総合センター 1・2F



[https://www.nii.ac.jp/
openforum/2025/](https://www.nii.ac.jp/openforum/2025/)

参考資料

- AXIES 大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン（2021）
https://rdm.axies.jp/_media/sites/14/2021/07/urdp-guideline.pdf
- AXIES 学術機関における研究データ管理に関する提言（2019）
https://rdm.axies.jp/_files/report/publications/proposal/rdm-recommendation.pdf
- AXIES 情報基盤スタッフ向けRDM教材
https://rdm.axies.jp/_media/sites/14/2021/12/AXIES2021-RDM1-040-LM.pdf
- NII 研究データ管理・公開ポリシー（試行版）雛形公開
<https://rcos.nii.ac.jp/service/datapolicy/>
- 内閣府 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方（2021）
<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaipen/sanko1.pdf>
- JSPS 科研費：研究データ管理・利活用（FAQ形式の説明あり）
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/10_datamanagement/
- MEXT 大学等の研究セキュリティ確保に向けた取組の方向性（2024-12-18）
https://www.mext.go.jp/content/20241218-mxt_kagkoku-000039402_1-1rrr.pdf
- G7 Best Practices for Secure & Open Research（2023、内閣府掲載）
https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/g7_2023/2023_bestpracticepaper.pdf
https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/integrity/g7_sigte_practices_jpn.pdf（日本語版）
- 大阪公立大学：研究データの公開可否の判断フロー
<https://www.omu.ac.jp/research/promotion/support/data-mgmt/>
- 産学連携学会「－大学・高等教育機関における－研究者のための安全保障貿易管理ガイドライン」
http://j-sip.org/info/pdf/anzenhosh01-1_2.pdf
- 経済産業省「委託研究開発におけるデータマネジメントに関する運用ガイドライン」
https://www.meti.go.jp/policy/innovation_policy/datamanagementguideline_4.pdf

NII Inter-University Research Institute Corporation /
Research Organization of Information and Systems
National Institute of Informatics

